丸山湿原群保全の会会報

（第 103 号）

発行日：平成 28 年 4 月 27 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788

臨時連絡先　　090 - 1895 - 8061（今住）

E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

たった 2 週間過ぎただけですが、まさしく「山笑う」季節となっております。ぜひ一句お願いいたします。また、道々にはキンポウゲ（金鳳花　別名ウマノアシガタ）が咲き、フジ（藤）の花も見られるようになりました。やはり 10 日ぐらい早い気がします。（地球は大丈夫？）

私は昨日、稲の種まきが終わり、苗代の準備に入っております。毎年のことですが、米作りの始まりにはドキドキいたします。失敗すれば一年の収穫がないわけですから。農家が保守的になる理由が分かるような気がします。

変化の激しい時期ですが、体調管理に気をつけ、活動参加よろしくお願いいたします。

（今住　4 月 24 日作成）

活動報告

★4 月２4日（日）

会員 5 名の参加、前日からの雨も上がりいい天気となりました。第 2 湿原視点場から川下ダム方面を眺めると、黄砂の影響か相当かすんでいました。春霞ととらえるか、黄砂・ＰM2.5 と捉えるか難しいところです。（昔は黄砂の知識がなかったため、春霞と同一視されていたようです。）

今回は、ごみ回収と巡視活動です。

【駐車場・エントランス付近】

前回発見したアナグマは、見事骨と皮だけになっていました。動物・昆虫・微生物が総合的に活動し、たった 2 週間でほぼこの状態に。（写真参照）土に帰るとはよく言ったものです。

アナグマ頭蓋骨

エコ推からの依頼で、「西谷自治振興」による草・ササ刈り・枯れ木の除伐が行われました。入り口付近は大変すっきりし、枯れ木が落ちてくる心配も解消されました。少し大きな枯れ赤松がありますが、芯はしっかりとしており、しばらくは大丈夫なようです。除去方法は今後検討していきます。

ササ刈りされたところを調べてみると、何やら鉄のような物が。探って見ると放置（廃棄）された自転車と判明。スコップ等を用い掘り出しました。アナグマとはえらい違いで、おそらく 10 年以上原型をとどめております。もう１台あるようでしたが撤去は次回以降ということで。

【植　物】

サルトリイバラ、トリガタハンショウヅル、ガマズミ（ミヤマ？コバノ？）、アオダモの各花。イシモチソウ、タカノツメ、オオバノトンボソウの発芽確認。（____の解説は最後に記載）

「食べられる山野草の達人」ガイドにより、サルトリイバラの花や、タカノツメの新芽を味わいました。味は個人の感覚で・・・うまい？　うえっ？生だからね・・・またリョウブ（令法）にまつわる講釈も。「昔は飢饉のときの救荒植物として、殿様が法をだし植樹した。」だから、「令法」という名だそうです。「リョウブ飯」ぜひ作り召し上がってください。（新芽）諸説ありますが・・・

タカノツメ（鷹の爪）

【動　物】

大きなトノサマガエルが、第１湿原で見られました。そろそろお目覚めのようです。

第 3 湿原付近では、カスミサンショウウオの卵のうがまだありました。前回道路で確認した卵のうは、結局卵のう内で幼生は死んでいましたが、こちらの卵は中で元気に泳いでいます。水深の違いが生死を分けたのでしょうか？道路（水深約 40 ㎝）湿原（水深約 15 ㎝）。

ウサギの糞があちこちで見られました。また大きな糞も見つかりましたが、何の糞なのかよくわかりませんでした。糞からは、草類をよく食べているらしく繊維質を多く確認。また糞の中にはかなりの確率で甲虫が住んでいました。コガネムシの仲間のようで「食糞群」というグループだそうです。基本的にはカブトムシの仲間です。（センチコガネ？正確には不明。写真なし）

さて、その糞ですが付近イノシシが大暴れなので、やはりイノシシではないかと思われます。私が知っているイノシシの糞はもっとつながっているのですが、調べてみると食べるもの（雑食）によって、バラバラになることもあるようです。一応イノシシの糞と結論付けます。

鳥の鳴き声がにぎやかなのですが、野鳥に詳しい人がいません。どなたか、会員になられる方おられないでしょうか？勧誘をお願いします。

シオヤトンボ（塩屋蜻蛉）

【昆虫】

トンボがあちこちで見受けられました。「シオカラトンボ」と皆さんでお話していたのですが、何か違和感があり画像で調べなおしたところ、「シオヤトンボ」と同定しました。ほとんどシオカラトンボと同じですが、肩のところの黒い筋に隙間があります。また、シオカラトンボより一回り小さく、オスの塩辛状態になった時先の黒い部分が少ないのが特徴です。写真は、麦わら状態。未熟でまだオスなのかメスなのかよくわからない姿です。目が白っぽいですが羽化したてはこのようになります。６月ごろには姿を消します。シオカラトンボの出現はもう少し後になります。「オオシオカラトンボ」もいるからややこしい。

蝶はアゲハの類が 2 種。まずはクロアゲハ。食草はみなさんご存知柑橘類の葉。じゃあどこに柑橘類が？との質問に「蝶博士」がイヌザンショウと明確な答え。なるほどと言いつつ柑橘類？実はミカン科サンショウ属だそうです。勉強になります。あと一種はジャコウアゲハ。説明は後で。

他にはキマダラヒカゲ（サト？ヤマ？不明）、キチョウ、テングチョウ他。

総会の開催日や、今後の活動提案については次回の会報にて連絡予定です。

次回活動日★5月 14 日（土）5月22 日（日）ご参加ください。

今回（4 月 24 日）の植物・昆虫（全て丸山で撮影）

トリガタハンショウヅル(鳥形半鐘蔓)

キンポウゲ科のつる性の植物でクレマチスの仲間。本州は福島県・関東から西と四国、九州の一部に分布しています。山地の林縁などにみられる。葉は１回３出複葉（三つ葉型の葉）で葉柄が絡みつき体を支える。冬は落葉。春に淡黄緑白色の花を下向きに咲かせる。和名の由来は、高知県の鳥形山で最初に発見されたことからきている。5～7 月（やっぱり早い？）

イシモチソウ（石持草）

モウセンゴケ と同じ仲間の食虫植。葉から生える長い腺毛の先端の粘液滴で昆虫等を捕獲し、粘液に含まれる消化酵素で分解、吸収して養分とする。イトトンボぐらいはキャッチする。粘性が小石を持ち上げるほど強いことが名前の由来。ただし、養分は根から得る方が多い。花は 5～6 月（次回は咲く？）

アオダモ（青梻）

モクセイ科トネリコ属の落葉広葉樹をタモ（「木」編に「佛」）といい、アオダモの名称は樹皮を水に浸すと水が青い蛍光色になることに由来している。雨上がりには樹皮が緑青色に見えるほど。成木の樹高は 10～15 m 程に成長。

堅い上に粘りのある材質で、アオダモは野球のバットやテニスラケットによく用いられている。 反面、成長が遅いことから資源確保が難しく、最近ではアオダモ資源育成の会が作られるなど計画的な植樹が進められている。野球愛好者の記念樹としても最近は人気。

ジャコウアゲハ（麝香揚羽）

オスは黒色、メスは黄灰色のアゲハチョウ。胴体に、黄色～赤色の毛を持つ。広い地域に分布するが、見られる場所は幼虫の食草であるウマノスズクサ類の生えている草原やその周辺に限定される。

ウマノスズクサ類は葉に毒を持っており、幼虫は毒をため込む。食べた鳥などは毒のため吐き出す。鳥はその後食べないように学習。鳥などに食べられるのを防げるせいか、ほかのアゲハチョウにくらべると、あまりはばたかずにゆったりと飛ぶようである。

オスはジャコウのような匂いを出すらしい。これが名前の由来

キマダラヒカゲ（黄斑日陰）≪ヤマキマダラヒカゲかサトキマダラヒカゲ分類は困難≫

黄褐色の地色に黒い斑紋が入る。地色は表面の褐色が強く、裏面は黄色に近い。夏型は色が濃くなる。幼虫は、イネ科の笹類やススキなどを食草とする。成虫は 5-6 月（春型）と 8-9 月（夏型）の年２回。日陰を好み、樹液や腐果、昆虫の死骸や獣糞に集まる。山道を歩いている人間の汗に寄ってくることもある。花にはあまり寄り付かない。ジャノメチョウ類。昔は２種分類なし。